

学校 教育 目標	「人にやさしくありがとうの心で がんばるがんばる最後まで 本気で取り組むひがほんの子」 ○自ら課題を見つけ、解決に向けて根気よく取り組んでいこうとする子を育てます。(知) ○自他のよさを認め、思いやりの心をもって、共に生きようとする子を育てます。(徳) ○心と体を鍛え、自分や人の命を大切にすることを育てます。(体) ○地域社会のために自らができることを考え、実践しようとする子を育てます。(公) ○様々な人や団体とのコミュニケーションを通じて、お互いを理解し合える子を育てます。(開)				
学校 概要	創立 50 周年	学校長 堂腰 康博	副校長 川名 敦巳	2 学期制	一般学級：19 個別支援学級：8
	児童生徒数： 645 人 主な関係校： 東鴨居中学校・鴨居小学校 城郷中学校・城郷小学校・小机小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	東鴨居中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈言語能力〉 〈問題解決・課題解決〉 〈情報活用能力〉 〈自分づくり〉	東鴨居中学校 鴨居小学校	多様性を認め合い、協働して課題解決を進め、自らの生き方を創造する子ども ○対話と協働を重視した授業転換による学びの深化と主体性の育成 ○教員の専門性向上と児童・生徒のインクルーシブな学びの実現 ○地域社会との連携による学びの拡張と児童・生徒の自己肯定感の醸成

中期 取組 目標	○課題解決のために主体的に学び、互いの考えをつなぐ「探究的な学び」を通じて、様々な変化に対応する問題解決能力や創造力が高まっていることを実感している。 1年目：「学びのきっかけ」を大事にします。子どもたちの興味関心を引き出し、自ら「問い」を見つける活動を重視します。 2年目：グループワーク・対話・プレゼンテーション等、多様な学びのスタイルを取り入れ、互いに学び合い、考えを深めていく力をつけていきます。 3年目：身近な地域の課題や社会の問題など、子どもたちの日常に繋がるテーマを設定し、探求的な学びを促進していきます。 3年間を通して、子ども一人ひとりの変化をデータを活用しながら捉え、学びの充実につなげます。 ○相手の立場を理解したり、共感に基づいたコミュニケーションを図ったりする等、協働して目標を達成する力が高まっていることを実感している。
----------------	---

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①授業づくりについて考える機会を創出し、各クラスにおいて、めあてを大切に授業づくりを目指す。②子どもが学ぶ目的をつかむことができることを目指すことで、子どもたちが自分の考えをもって、互いに学び合い考えを深める経験を積むことができるようにする。③ICTの活用など、多様な学びを保障し、子どもたちが互いに学び合い、考えを深める場を設ける。小さな積み重ねを大切にしながら学びを行う。
徳	豊かな心	①異学年交流を実施し、相手を思いやる気持ちや協力し合おうとする態度、自己有用感を育てる。②人権目標を学級ごとに設定し、振り返る機会を適宜設けることで意識を高め、学校全体で人権を大切にする風土をつくる。③みどり支援学校との交流や児童会活動を工夫して行い、様々な人との関わりを通してよりよい人間関係の基礎を培う。④子どもたちの人権を守る視点から、教職員の行動や発言を振り返る機会を設ける。
体	健やかな体	①学校保健委員会の活動を通して、本校の実態に合わせて、基本的な生活習慣の確立や心身の健康の保持増進を目指す。②昨年度同様、体育の授業における安全管理や場の設定等、水泳前研修やマットや跳び箱の指導法など、基礎・基本の確認や共有をするために、メンター研のみに限らず全職員で実技研修を定期的に実施する。③感染症流行拡大防止のため、手洗いの励行やハンカチを身につけることを目指すようにする。④体育の授業を通して、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたりできるようにすることで、仲間とかかわる力・態度を育てる。
公 開	地域学校 協働活動	①学校運営協議会を充実させ、PTAや地域と連携し、地域に根ざした学校づくりに励むようにする。②見通しをもって年間カリキュラムを考え、「ヒガホン学びのサポーター」に協力していただきながら、校内での学習補助の充実を図る。③地域コーディネーターと連携して、協力いただきたいことを明確にして、児童の学校生活や学習の充実に向けた地域との関わり方を実現していく。
いじめへの対応		①いじめの未然防止や早期発見のために、いじめアンケート、YPアセスメントを活用するとともにSC.SSW等専門家も積極的に活用して児童の指導体制を充実させる。②児童支援専任や各学年の児童指導員を中心に、児童の実態把握と情報交換を行い、子どもの信頼関係に基づく支援体制を整える。③いじめ防止基本方針を基に、いじめ防止対策委員会を中核として全教職員がいじめに対する共通理解、児童の見守り、組織的な対応を進めるようにする。
教育環境整備		①別室対応スペース(たんぼぼルーム)を活用し、個々のペースでの学校生活の再構築を支援する。また、個人の目標や活用の仕方の情報を職員全体に共有し、個別活動・学習を行い多様な学び方に対応する。②教職員の休憩時間の確保と職員間のコミュニケーションの充実を図るため、休憩時間を確実に確保できる声掛けを行う。また、長時間労働の抑制、小規模な交流会(リフレッシュタイム等)を設け、職員間の良好な関係づくりを促進する。
特別支援教育・ 児童理解		①スタンダードを児童の規範意識の向上や、自己選択、自己決定のための物差しとして活用する。②引き続き学校・家庭・専門機関の連携を図り、コンサルテーションや校内委員会などを機能させ、児童支援を充実させる。③中学年の算数少人数制を導入し、学習支援の体制を整備する。④不登校支援の手引きを活用し、校内の教室以外の学びの場の環境を整える。
安全教育・管理		①教室等の点検を毎月行い、安心・安全に集中して学習できる環境を整える。②児童の危機回避能力の向上、教職員の防災対応能力の向上を図るため、様々な想定避難訓練を計画的に実施する。また、職員研修を適宜実施する。③保護者と児童とが一緒に歩いて通学路の危険箇所を洗い出したり、登下校中に被災した場合の身の守り方について考えたりするために、引き取り訓練等を活用する。④命の安全教育の実施を行う。
情報教育		①学年ごとに目指す姿を明確にし、教育活動全体を通して情報を適切に判断・活用する能力の育成を図る。②端末使用のルールを設定し、徹底する。また、各学年の発達段階に合わせて端末持ち帰りを実施し、家庭学習の充実を図る。家庭とも共通認識をもつことで、①で目指す姿に近づける。③AIDリルを導入し活用することで、児童の学習のつまずきをデータで確認しながら、一人ひとりに合わせた細やかな指導を目指す。
人材育成・ 組織運営(働き方)		①重点研やメンター研をはじめとする研究・研修の充実を図るとともに、学校に求められる人材の育成と組織の向上を図るようにする。②主幹教諭や各主任が中心となりながら、全職員で機能的な学校運営を推進するようにする。③組織の改変を通して放課後の時間を確保しながら質の高い授業づくりを実現していくとともに、長時間労働の削減に努める。
担当		児童指導・特別支援チーム 衛生委・事務部 児童指導・特別支援チーム 防災・安全教育チーム ICT・GIGA構想チーム 教務部・メンターチーム